

国語科指導案

学校名 海田町立海田小学校

- 1 日 時 平成 31 年 2 月 4 日 (月)
- 2 学 年 第 5 学年 2 組 男子 1 8 名 女 9 名 計 2 7 名
- 3 単元名 朗読のプロになろう
「大造じいさんとがん」(東京書籍 5 年)

4 単元について

(1) 単元観

本単元で育てたい主となる能力は、学習指導要領第 5 学年及び第 6 学年の「C読むこと」の内容にある「ア自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をすること。」及び「エ登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。」である。また、単元の中核となる言語活動として「お気に入りの場面の朗読発表会を行うこと」を位置付ける。本教材は、大造じいさんと残雪の間に繰り広げられる生存をかけた厳しい闘いと、残雪の行動に対する大造じいさんの感動が物語の骨子となっている。大造じいさんが残雪の知恵や勇気に感動していく心の動きが、リズムカルな動きや簡潔な文体で、生き生きと描かれていて、朗読する力を付けたり、朗読を通して表現の効果を考えたりすることに適した教材である。また、色彩語、比喩、擬音語などを用いた自然描写や人物描写も巧みであり、登場人物の心情描写とともに、人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、自分の考えをまとめたりする力を身につけることができる。

(2) 児童観

本学級の児童は、これまでに朗読について学習経験がない。音読では、声の大きさや抑揚、間を空けたりするなどの工夫について学習はしているが、言葉に着目し、文章の内容や表現をよく理解し伝えることは課題がある。また、物語文を扱った単元では、場面の様子や情景描写と登場人物の心情の関係について学習を行ってきた。

4 月に行なった学力テストでの物語文の読み取りの正答率は 62% であり、さらに、叙述を基に人物の心情を想像してまとめる問題についての正答率が 52% となっており、登場人物の心情をとらえる力にも課題があるという結果が出ている。

(3) 指導観

指導にあたっては、初めての朗読に対し主体性に取り組みさせるために、単元のゴールを保護者に向けての朗読発表会に設定し、音読と朗読の違いを明確にした上で学習に取り組みさせる。自分の思いや考えをまとめ、表現性を高めて伝えるために、例えば「ううむ。」「ううん。」などの短い言葉にも着目させ、その時の大造じいさんの気持ちがどのように変わったのか、また、大造じいさんの残雪に対する気持ちが作品全体のどこで大きく変わったのかを問い、大造じいさんの残雪に対する心情の変化について自分の考えをもたせるようにする。

また、少人数での対話活動を効果的に取り入れ、児童全員が自分の考えをしっかりと表現し交流する機会を設定する。お互いの朗読を交流する活動では、言葉や文にこだわって読んでいくと、今まで見えなかったものが見えてくることに気付かせ、朗読のおもしろさを感じられるようにしていきたい。

5 単元の目標

- 主体的に朗読に取り組み、自分の思ったことや考えたことを聞き手に伝えようとする。
- 表現に着目して人物の心情を捉え、自分の思ったことや考えたことが表れるように朗読することができる。
- 登場人物の相互関係や、情景描写に着目しながら、人物の心情を読み取ることができる。
- 比喻や描写等の、表現の工夫に気付くことができる。

6 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	伝統的な言語文化と国語の 特質に関する事項
<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に朗読に取り組み、自分の思ったことや考えたことを聞き手に伝えようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・強く印象に残った場面を選び、自分の思いや考えが伝わるように朗読している。 ・登場人物の相互関係を捉え、情景描写に着目しながら、人物の心情を読み取っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・比喻や描写などの表現の工夫に気付いている。

7 指導と評価の計画（全9時間）

次	時	学 習 内 容	評 価			
			関 意 態	読 む	言 語	評価規準 (評価方法)
一	1	見通し プロの朗読を聞く。(ごんぎつね) 音読と朗読の違いについて考える。 朗読会に向けての、学習計画を考える。	○			<ul style="list-style-type: none"> ・学習計画について、学習の見通しをもち、朗読に取り組む計画を書こうとしている。 【関・意・態】 (発表・ノート・観察)
二	2	第一場面より、うなぎつりばり作戦の時の大造じいさんの気持ちやその背景となる情景を読み取る。		○		<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の描写、背景を読み取っている。 【読む】 (発言・ノート)
	3	第二場面より、タニシ作戦での大造じいさんの気持ちや、その背景となる情景を読み取る。		○		<ul style="list-style-type: none"> ・大造じいさんの残雪に対する執念を読み取っている。 【読む】 (発言・ノート)
	4	協働 第三場面より、おとり作戦での大造じいさんの気持ちや、その背景となる情景を読み取る。		○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・おとりのがんを使うことによる、大造じいさんの心の余裕を読み取っている。 【読む】 (発言・ノート) <ul style="list-style-type: none"> ・比喻や描写などの表現の工夫に気付いている。【伝国】 (発言・ノート)

	5	協働 第四場面より、残雪を見送る大造じいさんの気持ちを考え、その背景となる情景を読み取る。		○		・大造じいさんの変容について読み取っている。 【読む】(発言・ノート)
	6	残雪に対する大造じいさんの心情の変化する「山場」について読み取る。		○		・登場人物の相互関係を捉え、情景描写に着目しながら、人物の心情を読み取っている。 【読む】(発言・ノート)
三	7	自分のお気に入りの場面を選択し、どのように表現すればよいか考え、朗読する。		○		・強く印象に残った場面を選び、自分の思いや考えが伝わるように朗読している。【読む】(発言・ノート)
	8 本時	協働 場面別のグループで、朗読を発表し合い、工夫点などを交流し合う。		○		・強く印象に残った場面を選び、自分の思いや考えが伝わるように朗読している。【読む】(発言・ノート・交流)
	9	振り返り 朗読発表会をする。 (参観日)	○			・強く印象に残った場面を選び、場面の状況や人物の心情を朗読で表現しようとしている。 【関・意・態】(発言・ノート)

8 本時において育成したい資質能力

主体性	朗読発表会に向けて、強く印象に残った場面を選び、場面の状況や人物の心情を朗読で表現しようとしている。
コミュニケーション能力	強く印象に残った場面の朗読を聞き合い、それぞれの考え方や感じ方の違いを取り入れ、自分の考えを広げたり深めたりしている。

9 本時の学習

(1) 本時の目標

強く印象に残った場面を選び、自分の思いや考えが伝わるように朗読することができる。

【読む】

(2) 観点別評価規準

強く印象に残った場面を選び、なぜそのように読むのか、自分の思いや考えを明らかにしながら朗読している。

(3) 準備物

学習計画図

(4) 学習の展開

	学習活動 ○予想される児童の反応	指導上の留意事項（・） 「◆努力を要する」状況と判断した 児童への指導の手立て	評価規準 教科の指導事項（○） （評価方法）
導入	1 学習計画から本時の課題を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の流れを確認する。 ・朗読発表会の前時に当たることを意識させる。 	
展開	2 本時のめあてを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでに学習してきた、着目したい表現について振り返る。 	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">自分の思いや考えが人に伝わる朗読を目指そう。</div> <p>3 場面ごとのグループで朗読と向き合い、友達と交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○第一場面 ○第二場面 ○ハヤブサと残雪の戦いの場面（第三場面） ○大造じいさんと残雪がにらみ合う場面（第三場面） ○第四場面 <p>4 良かった朗読の工夫を交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○残雪に呼びかける時の読み方は私も一緒だった。 ○第四場面での大造じいさんの気持ちはうれしそうだと思っていたけど、○○さんの意見を聞いて、晴れ晴れとした気持ちだと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・場面は1・2・3（前半）・3（後半）・4と分け、人数は3人とする。 ・自分で選んだ場面を朗読し、なぜその方法をとったのかを、思いや考えを明らかにしながら説明させる。 ・～の言葉に着目して読みました。この言葉には、～という気持ちが表れていると思います。などの話型を示し、交流させる。 ・同じ場面での朗読について、表現の工夫の共通点、相違点についても話し合わせる。 ◆他の児童はどんな工夫していたかを想起させ、取り入れられそうなものがないか考えさせる。 ・グループ交流の中で、良い朗読をしていた児童を数名発表させる。 	

○強く印象に残った場面を選び、自分の思いや考えが伝わるように朗読している。（観察）

